

(様式例第8)

地域医療支援病院業務報告書

平成25年10月7日

鹿児島県知事 伊藤 祐一郎 殿

住所 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10番1号

開設者

氏名 鹿児島県知事 伊藤 祐一郎
(鹿児島県立大島病院)



標記について、医師法第12条の2の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

1 紹介患者への医療提供及び他院への患者紹介の実績

地域医療支援病院紹介率	82.0	%	算定期間	平成24年 4月 1日 ~平成25年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		5,610	人
	B: 救急患者の数		1,265	人
	C: 初診患者の総数		8,382	人

他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,020人 (5,610人)
--------------------	--------------------

(注1) 「地域医療支援病院紹介率」欄は、A、Bの和をCで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(注2) 地域医療支援病院紹介率が60%以上80%未満の病院にあっては、承認後2年間で地域医療支援病院紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を併せて提出すること。

(注3) 他の病院又は診療所に紹介した患者の数については、括弧内に、「A: 紹介患者の数」のうち、他の病院又は診療所に紹介した患者の数を併せて記入すること。

2 共同利用の実績 (様式例第9)

3 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送用自動車 により搬入した救急患者の数	1, 530人 (830人)
上記以外の救急患者の数	7, 174人 (983人)
合 計	8, 634人 (1, 813人)

注 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。
括弧内には、それぞれの患者のうち入院を要した患者数を記載すること。

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

- 4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績（様式例第5）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法（様式例第6）
- 6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績（様式例第10）
- 7 委員会の開催の実績（様式例第11）
- 8 患者相談の実績（様式例第12）

(様式例第5)

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる
能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医療安全管理研修会、緩和ケア研修会 NST勉強会、褥瘡研修会、ICT研修、
全科合同カンファレンス、リスクマネジメント、クリニカルパス研修会、
がん緩和ケア研修会

2 研修の実績

研修者数	院内 1,177名以上	院外 1,462名以上
------	-------------	-------------

(注) 前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

(1) 研修プログラムの有無 有 ・ 無

(2) 研修委員会設置の有無 有 ・ 無

(3) 研修指導者………別紙参照

(4) 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備の概要
講堂	m ² 160.5	(主な設備) 音響装置、ビデオプロジェクター、スクリーン
研究室	m ² 50.8	(主な設備) 演台、机、椅子

(様式例第6)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 眞田 純一
管理担当者氏名	次長兼総務課長:米澤耕二, 経営課長:松本卓郎, 医事係長:田島孝二 診療情報管理員:安田由香里

諸記録の種別		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に 係る入院期間中の診療経過の要約		電子カルテ 及びカルテ 及びカルテ 保管	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌等は年度で分類保管 ・カルテ庫内は患者ID番号で分類保管 ・入院及び外来診療録は患者番号で電子カルテと紐付けされており, 患者番号を入力することにより閲覧できる。
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	
	救急医療の提供の実績	経営課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	総務課及び 地域医療連携室	
	閲覧実績	経営課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	経営課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には, 個々の記録について記入する必要はなく, 全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式例第9)

地域医療従事者による診療，研究又は研修のための利用（共同利用）の実績

1 共同利用の実績

共同利用を行った医療機関の延べ人数	3,743人
開設者と直接関係のない医療機関の延べ人数	3,743人

注) 当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率等を明記すること。

2 共同利用の範囲等

頭部MRI，CT，RI，頸動脈エコー，心筋シンチ，心エコー，胃カメラ，大腸カメラ
--

注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用を行ったものを明記すること。

3 登録医療機関の名簿……別紙参照

常時共同利用可能な病床数	8床
--------------	----

(8) 医療相談件数

項目		H22年度	H23年度	H24年度	
A 経済的(生活保護申請相談等)	患者	228	237	190	
	家族	137	149	122	
	その他	101	113	78	
B 精神的	患者	0	1	4	
	家族	0	0	5	
	その他	1	0	5	
C 社会復帰	復職	患者	0	1	2
		家族	1	3	1
		その他	1	1	3
	就職	患者	0	0	0
		家族	0	0	0
		その他	0	1	0
D その他(各種証明等の交付申請等)	患者	103	64	29	
	家族	59	39	32	
	その他	266	323	351	
E 福祉、役場等との連絡	患者	40	18	47	
	家族	16	13	8	
	その他	133	91	64	
計	患者	371	321	272	
	家族	213	204	168	
	その他	502	529	501	
合計		1,086	1,054	941	

平成24年度県立大島病院地域医療支援病院管理運営委員会議事録

平成25年3月7日(木) 19:00～
県立大島病院 2階研究室
出席者 別紙委員出席者名簿のとおり

議事進行：向井委員長
事務局：満 副院長
内司総看護師長
寺師，正岡副総看護師長
南事務長
祝副地域医療連携室長
脇事務次長
松本経営課長
田島医事係長

◎議事内容

(報告事項ならびに協議)

1 委員長及び副委員長選出

千田委員：事務局案で選任を。

眞田委員：慣例に従い、大島郡医師会長が委員長、大島病院長が副委員長でよろしいのでは。

(委員全員賛成)

決定事項：委員長 向井奉文 大島郡医師会長
副委員長 眞田純一 大島病院長

2 報告並びに協議事項

(1) 地域医療支援病院について

(2) 業務報告について

- ① 紹介率・逆紹介率の状況
(紹介患者に対する医療提供及び患者紹介)
- ② 救急患者の状況
(救急医療の提供)
- ③ 共同利用等の実績
(検査機器の共同利用及び共同診療)
- ④ 研修の実績
(地域医療従事者の資質向上のための研修)

(3) 地域医療連携室の業務状況について

(4) 救命センターについて

(1) 地域医療支援病院の制度概要及び(2) 業務報告について

事務局：資料に基づき(1)～(2)を松本経営課長より説明

(質疑)

千田委員：特定初診料について、どのような意味合いがあるのか。

松本(事務局)：特定初診料の制度には、当院のような急性期病院としての役割を充実させるため、軽症患者を防ぐ意図がある。(まずは、かかりつけ医に見てもらい、必要がある場合に当院を受診してもらう仕組みとなっている。)

当院は、制度を平成17年度から導入しており、紹介状がない場合、診療費とは別に1,500円を支払ってもらっている。

資料のデータでは、特定初診率が年々下がっているの、一旦かかりつけ医に見てもらってから当院を受診するという、望ましい傾向になっているものと考えている。

眞田委員：地域の医療機関との連携を深める意味でも、紹介状を持って来ていただくようにしており、紹介状を持ってきた患者からはお金はいただかない。

千田委員：開放型病院の登録医は、奄美市内の医師全員が登録しているのか。機器の共同利用と共同診療をどのように進めていくのか。

眞田委員：共同診療を行う医師は、全医師ではない。医師会に属している医師がメインである。資料に登録医が記載されている。

共同利用は、24年度は、23年度と同じくらいの数であり、共同診療は、進めていこうとは考えているが、なかなか難しい面がある。ケースバイケースで対応していくことになる。

千田委員：共同利用や共同診療などに課題はないのか。どの分野(診療科)に力を入れていこうと考えているのか。

眞田委員：実績としては、今年度も昨年度と比べて問題ない数字になっている。全般的な話では、今年度は神経内科と皮膚科の常勤医師がいなくなっており、地域の患者に不便をかけている。いかにカバーしていくかが課題となっている。

千田委員：自分たちは管理運営委員会委員の委嘱を受けている。地域医療支援病院としての課題について、議論等するのが役目ではないのか。

眞田委員：報告した内容について、問題があるようなところを指摘していただきたい。資料で言うと、例えば、連携室への相談内容について、受診援助が22年度、23年度に比べて24年度がなぜ減っているかとか。地域の医療施設からの相談が22、23年度は0なのに、24年度は188件になっているのは、どうしてかとか。

(3) 地域医療連携室の業務状況について

事務局：資料に基づき(3)を祝地域連携副室長より説明

(質疑)

眞田委員：地域の医療施設からの相談が22、23年度は0なのに、24年度は188件になっているのは、どうしてか
連携室への相談内容について、受診援助が22年度、23年度に比べて24年度がなぜ減っているのか。

祝(事務局)：連携室は、相談内容について22年度からデータを取り始めているが、地域の医療施設からの相談が多いということで、項目立てしたのが24年度からであるので、24年度のみ数字が記載されている。
また、がん相談で言えば、相談を受ける窓口が認定看護師及び連携室となっており(入院患者は認定看護師、連携室は外来患者担当という役割分担となっている)、その振り分けによって数が増減する場合もある。線引きが難しいものもある。

向井委員長：相談する方は、患者だけでなく、家族も含むのか。

祝(事務局)：そうである。

(4) 地域救急救命センターの整備について

事務局：資料に基づき(4)を南事務長より説明

(質疑)

向井委員長：以前、ヘリは夜間は降りれないと聞いたが、県病院の屋上にヘリが降りるとい
うのは、リスクが大きいのではないか。

南(事務局)：ヘリの飛行については、直陸の際の条件など色々制限がある。ヘリは、近くを流れる川の川下から病院に寄ってきて、屋上に着陸することになると思われる。安全基準をクリアするよう厳密に計算しており、そうでないと認可が下りない。ただ、ドクターヘリの導入がいつになるかは、まだ決まっていない。決まったら、地域住民への説明会等も実施したいと考えている。

向井委員長：ドクターヘリは、夜間も飛ぶのか。

南(事務局)：夜間は危険が多いので、ドクターヘリは運行されない。ドクターヘリは概ね日中の運行になるが、暗くなるぎりぎりまで飛ぶことは予想されるので、その点も考慮して設計されている。

千田委員：自衛隊機は着陸できないとのことだが、自衛隊機で搬送する必要がある場合も予想されるが、どう対応するのか。自衛隊機は利用しなくても問題ないという判断をしているのか。

眞田委員：屋上のヘリポートは、本当は頑丈な作りにしたかったが自衛隊機は大型であり、着陸させるためには費用が膨大になることもあり断念した。
ドクターヘリや防災ヘリまでは着陸可能である。自衛隊ヘリの利用については、これまでと同様の対応になる。

南(事務局)：自衛隊ヘリの利用について、これまで通りである。
佐大熊ヘリポートを利用することになるが、夜だと病院から救急車で5分で行ける。

千田委員：救急センターを作れば、今後は、急患を他病院へお願いすることはなくなるのか。

眞田委員：夜間など対応できない部分もある。
医療には一次、二次、三次医療というのがあるが、当院では三次医療の一部については対応できない。心臓外科関係など。そういう場合は、これまで通り自衛隊ヘリで運ぶことになる。
なるべく大島病院で対応できる体制作りが課題である。

(5) その他

千田委員：事前に資料を送付して欲しい。会議の場で渡されて、即検討は出来ない。
(だが、資料や説明ぶりは、昨年度と比較して、分かりやすく非常に良かった。)

南(事務局)：来年度からは、委員の皆様へ一週間前くらいまでにお送りすることとする。

向井委員長：地域医療支援病院である県立大島病院への提言は、今日だけではないと思う。病院も節目を迎えており、地域連携室が出来、来年には救急センターを開設するなどバージョンアップしている。
今後、より良い運営をしていくために委員の提言は不可欠である。
病院の方も期待していると思うので、委員の皆様から気づいた点があれば、遠慮なく病院へ提言等して欲しい。(今後も忌憚のない意見を述べていきたい。)

眞田委員：ご意見等があれば、いつでも寄せて欲しい。

南(事務局)

向井委員長：それでは、他にご意見ないようですので、今日の管理運営委員会を終了とします。

地域医療支援病院管理運営委員会出席者名簿

職名	所属	氏名
委員長	大島郡医師会長	向井 奉文
委員	大島郡医師会奄美支部長	津畑 修
委員	大島郡歯科医師会長	中村 繁
委員	鹿児島県薬剤師会奄美支部長	平井 馨
委員	大島支庁保健福祉環境部長	倉園 茂樹
委員	大島地区消防組合消防長	原田 俊光
委員	学識経験者	千田 重弘
委員	奄美市健康増進課長	重田 久夫
委員	県立大島病院院長	眞田 純一